

【第 22 回パラグアイ便り】



2016年日本人移住80周年記念イベント

『 日本人パラグアイ移住ーラ・コルメナ市創設ー80周年記念式典 』

今から 80 年前の 1936 年 5 月 15 日、パラグアイ政府より許可されたアスンシオン東南約 130 キロに位置する原生林の地に日本人移民 100 家族の試験的な移住が開始され、ブラジル拓殖組合笠松技師一行が到着、同移住地は、勤勉な日本人に相応しく蜜蜂の巣箱に由来した『ラ・コルメナ』と名付けられました。同年 6 月よりブラジルからの指導移住者が入植、同年 8 月には日本から直接 11 家族 81 名が、そして太平洋戦争が始まる 1941 年までの 5 年間に、123 家族、790 名が同地に入植します。（なお戦時中の敵性国民としての厳しい制約や戦後すぐに虫害による農業の壊滅などで、転出する家族も多く出ました）。

爾来この 5 月 15 日はラ・コルメナの移住記念日とされ、物故者慰霊祭や祝賀式典が実施されてきましたが、日本人移住発祥の地ラ・コルメナ創設 80 周年となる本年は、パラグアイ



(写真：教会での慰霊祭)

イ全土の日本人移住者（その大宗は戦後の 1960 年前後の移住者です）にとっても特別な意味があります。

本年は、全パレベ

ルでの日本人移住 80 周年記念行事におけるメイン・イベントの一つとして、またパラグアイ独立 205 周年記念日（独立は 1811 年 5 月 14 日）祝賀も併せて、全パからの日系人代表はもとより、アルゼンチンに転住した元ラ・コルメナ移住者家族、さらにはアフアラ副大統領以下パラグアイ要人も多数出席した一大式典が挙行されました。



(写真：移住 80 周年記念碑除幕式。右から、アフアラ副大統領、千葉福寿会会長、本使、吉田 JICA 事務所長、根岸コルメナ日本文化協会会長)

筆者が当国に着任してからの 2 年間、多くの日本人移住者との交流で、移住当初の筆舌に尽くしがたい苦労話であっても柔らかな表情で語られるのを聞き、また彼らを受け入れたパラグアイ社会への感謝も聞いてきました。一方、パラグアイ人からは、農業分野における日系

社会の活躍はもとより、日本人移住者の忍耐、勤勉、誠実といった美德や価値観が現在のパラグアイを形成する過程でもたらした意義を繰り返し聞かされました。

開拓地での非日系人との共存共栄が進展する中で、農業分野のみならずサービス業、さらに医師・弁護士といった各分野において若き日系世代が活躍しています。こうした、パラグアイ人と日本人が共存の思いをそれぞれがごく自然に抱いている状況は、おそらく他の国では見られない姿でしょう。



(写真上：宮坂公園での記念式典での本使祝辞。左は移住の父宮坂國人市の胸像)

慰霊碑があり、慰霊碑には 70 周年記念に來パされた秋篠宮殿下の訪問記念プレートが埋め込まれています。)

パレード先頭にはパラグアイ民族衣装の男の子と着物の日系人の女の子がラ・コルメナ市旗を掲げて行進しますが、これがこの街を象徴する光景です。引き続き、地元教育施設の教師や生徒、地域住民有志、地元消防団、さらに国家警察・騎馬警察隊などが参加し、



(写真：現地メディアで紹介されたパレード時のスナップ。左からアファラ副大統領夫妻、本使夫妻、大使館・日本人会関係者)

さて当日は絵に描いたような秋晴れ。ラ・コルメナ市中心にある宮坂公園での記念式典に引き続き、メインストリート『5月15日通り』で[80周年祝賀と独立記念パレード]が行われました。(なお宮坂公園は、当時のブラジル拓殖組合専務理事宮坂國人氏を偲ぶ公園で、同氏は、移住に先立つ1934年にコルメナの地を新たな移住先に選定しました。同公園には移住第一陣リーダーの笠松尚一氏の胸像と

(写真下：コルメナ市旗の行進。旗には日・パ両国国旗と蜜蜂が描かれている)



華やかで街の人の喜びあふれるパレードが繰り広げられました。

他国と比較するとまだ移住の歴史の浅いパラグアイにおいても、世代交代が進むにつれ「広い意味での日系社会」と「会員組織日本人会」との乖離が大きくなり、全パ的にも日本人会の組織率低下は否めない。とくにラ・コルメナ移

住地は農業以外の雇用先はアスンシオンなどの都市部であり、人的にも資金的にも日本人会の活動が困難となってきています。こうした中、ラ・コルメナ日本文化協会（日本人会）は本行事実施に当たり『原生林にラ・コルメナ市を築いた日本人』をテーマに、日本人会という垣根にとらわれず、同地の「広い意味での日系社会」とラ・コルメナ市を巻き込んで、街を挙げてのイベントとしました。



（写真下：地元の生徒、住民、騎馬警官のパレード）

パレード終了後はラ・コルメナ日本文化協会大講堂で 400 名を超える大昼食会が催され、移住 1 世・功労者表彰に引き続き、日本やパラグアイの伝統芸能や音楽、子供たちによる移住 80 年の歴史劇、当国最後の開拓地イグアス移住地（1961 年開設）日本人会による太鼓を中心とする日本芸術の披露等々、夜遅くまでアトラクションが繰り広げられました。

今回の式典は、ラ・コルメナ移住 1 世の方向が多数参加し、移住当時を知る生き証人として次世代に思いをつなげることのできる最後の大型周年行事となります。他方これからのパラグアイの発展に尽くす責務を負う次世代の日系人にとって、開拓精神という強い志のバトンを引き継ぎながらも、次の新たな出発の号砲ともなる節目の式典です。



（写真：祝賀会場での菓子和伝統芸能。お菓子は日本人会婦人部の手作りで

『80 años (年)』の模様となっている)



(写真:式典を報じる当地主要全国紙の記事)

2世、3世の若手中心に企画、実現した今回の式典は、当国主要全国紙でも一面を使って大きく報道されました。記事の中では浴衣姿の子供たちとのパラグアイ民族舞踊の女性たちの写真が上下に掲載されています。

パレードに参加した収穫した果物を運ぶトラックターの写真も載っていますが、ラ・コルメナをフルーツ栽培の中心地に変え、それ以前には当国にはなかった果物の食文化を持ち込んだ日系人農家の功績を示しています。

パラグアイ社会とともに歩いていくことを再確認する今回のような開かれた取り組みは、これからの日系社会活動の一つの将来像を示した姿といえるでしょう。

【追記】

現ラ・コルメナ福寿会会長で、移住者を代表して慰霊祭除幕式に臨まれた千葉玄治郎氏は、15日の一連の式典・祝賀会の大成功を見届けるかのように17日未明心臓発作により逝去されました。享年74歳。氏は1941年コルメナ生まれで、1998年以降2回にわたり計7年間会長職にあり、終始先頭に立ってラ・コルメナの歴史を創ってきた方です。

2006年ラ・コルメナ移住70周年に秋篠宮殿下が同地をご訪問された際に会長として接遇の責任者を努められるなど、多年の功績で一昨年外務大臣表彰を受けられました。

心よりご冥福をお祈りします。



(写真:慰霊碑除幕式での故千葉玄治郎氏。アフェア副大統領と)

(上田善久 大使館 2016年5月)